

ニッポン ドクター和の 臨終図巻



「フラメンコ」という言葉を知ったのは1966年、僕が8歳のとき。その年テレビからは、へ好きなんだけとで始まる『星のフラメンコ』という曲が四六時中流れていて、一緒に手拍子を叩いた記憶があります。

希代のヒットメーカー・浜口庫之助さん作詞作曲の『星のフラメンコ』は発売からわずか2カ月で50万枚を突破。この人の代表曲となりました。

歌手で俳優の西郷輝彦さんが、2月20日、都内の病院で死去。享年75。西郷さんは、2011年に前立腺がんを診断され、すぐに全摘手術を受けて一度は完治されたようですが、6年後の2017年に再発。去勢抵抗性前立腺がんのステージ4と診断され、治療を続けていました。「去勢抵抗性」とは、男性ホルモンを抑える治療をしている状態で進行したという

243 歌手、俳優 西郷輝彦



永遠のアイドルがまた一人

長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

意味です。前立腺がんは、早期発見できれば完治が可能です。再発しても比較的緩やかな経過のがんです。いづれにせよ、男性は60歳を過ぎたら年に1度PSA検査をすることをお勧めします。

西郷さんは昨年4月、日本で未承認のルテチウムPSMA標的治療という、がん細胞の表面に存在しているタンパク質だけを狙い撃ちする特殊な放射線治療を受けるため、医療ビザを使って渡豪しました。

この治療法は、5年前頃から欧米で注目されている治療ですが、わが国では、承認にはあと数年かかるといわれています。日本は本来、新しい治療法や薬に非常に慎重な国です。欧米人に有効なものが、遺伝子

の違うアジア人に必ずしもそうであるとは限らないので、治験を重ねていくことは非常に大切。しかし、患者さんにとってはほごかし側面もあります。

西郷さんは、オーストラリアでの様子をYouTubeチャンネルで報告していました。体を張って紹介することで、新しい治療法が1日でも早く日本で承認され、若い人の助けになるようにという想いからだったそうです。

どんな形で治療を終えたかの詳細は不明ですが、西郷さんは9月に帰国。しかし翌月に体調を崩し、都内の病院に入院されました。亡くなる前日、三女で女優の今川宇宙さんは、西郷さんの耳元にiPadを置き、ビートルズの「Let It Be」を流したそうです。久しぶりの音楽に西郷さんは目を輝かせ、手でリズムをとり、曲が終わると、手の甲にキスをしてくれたと、宇宙さんはSNSで報告しています。お別れのキスまでなんとスターらしいことか！ 永遠のアイドルがまた一人、空へと引越しました。